

2001年度インゼミ報告 VS 大阪大学、一橋大学

文責：熊野 聖史

はじめに

11月23日に大阪大学にて、京都大学岩本ゼミナール、大阪大学の阿部ゼミナール、一橋大学の石川ゼミナールによる合同勉強会が行われました。例年、阪大は京大と一橋大と別個にインゼミを行ってきましたが、今年度は初めて3校集まったの開催となりました。そのため、昨年まで阪大と京大の勉強会では両校が同じテーマを扱っていましたが、今年は各ゼミがテーマを選び、それを発表するということになりました。これは、高崎経済大学とのディベートの内容をさらに改善して発表できるということもあり、負担からしても（特に今年はゼミの人数も少なめだったので）願ってもないことでした。また、一橋大学の石川ゼミさんとも新たな交流が持てることも非常に魅力的でした。

それぞれのテーマは京大が「セーフガードの是非を考える」、阪大が「FTAによるWTO多角的自由貿易協定で担当した部分について分担して執筆しました。もっとも時間が1週間弱しかなく、目標の達成度については疑問も残りましたが。それでは、各校の発表内容を概観してみます。

当日の発表内容

岩本ゼミナール

セーフガードの是非を①発動基準を満たしているか？②価格で外国産と争うべきか？③他産業への影響は？④理論的には？という4つの切り口で検証した。①に対しては、ある程度の輸入の増加があることや、市場価格が下がってきていることは農水省の統計に認められるが、輸入品の増加と国内農家の苦境の因果関係が証明できないこと、②に関しては、価格差はすでに大きく、そう簡単に埋まるものではないので、外国産との差別化に道を見出すべきである、③は報復関税など他産業への飛び火が見られること、④は補助金政策のほ

由化への影響」、一橋大は2つのグループに分かれ「内外価格差問題を考える」、「中国WTO加盟の影響」というテーマでそれぞれ発表を行いました。それぞれのゼミで研究テーマを独自に決定したのにも関わらず、全てのグループが貿易問題を扱い、息もピッタリでした。他のグループの発表の中で、自らが扱ったテーマとの関連を発見することもあり、新たな発見が出来たことは幸運でした。

このインゼミでは、各グループが論文を書き、それを用いて発表を行うという形式をとりました。我々セーフガード班は高崎経済大学とのディベートのためにたくさんの資料を準備していましたが、ディベートでは自らに不利なデータは使えないので、日の目を見ずにお蔵入りしたものも数多くありました。そのため、今回の勉強会ではセーフガードの是非をバランス良く概観することに目標を置き、お蔵入りした資料にも敗者復活の機会が与えられました。そして、班員がそれぞれ高経とのうが理論的に厚生が増加することから、セーフガードという関税政策は採るべきではないという結論に落ち着いた。ただし、財政問題や政治問題など、多くの考慮すべき問題があることも指摘した。阿部先生からは、輸入量と為替レートの関係にもっと注目して検証するべきだという講評をいただいた。恥ずかしながら、我々の考察にはその点がまったく欠けていた！

阿部ゼミナール

FTAがWTOの多角的自由化へどのような影響を与えるかを考察した。20世紀初期のブロック経済化が第2次世界大戦勃発の1つのきっかけとなったことから、WTOの多角的自由化は重要であり、WTOの役割の大きさを指摘した。しかし同時に現実には、先進国と発展途上国の経済格差問題や政治的問題の影響もあって、WTOが十分に機能していないとしている。その中で、FTA締結の動

きは、2 国間協定の締結が WTO の多国間協定の締結を促進するという補完的役割を果たすものであり、積極的に FTA を活用すべきであると結んでいる。

石川ゼミナール、内外価格差班

内外価格差の発生要因を、マクロ的要因（為替レート変動の影響など）、及びミクロ的要因（貿易障壁、商慣行、ダンピングなど）から分析し、その格差の是正、縮小のためには規制緩和だけでなく、幅広い分野での対応が有効であるとしている。そしてそのために製造から流通に至るコストを引き下げること、市場原理を有効に働かせ、価格形成の柔軟性を高めるための市場開放措置等を提言している。さらに貿易財の内外価格差だけでなく、運輸サービス、通信など非貿易財の価格差についても言及している。理論的に裏づけをしながら、同時にケーススタディーも含んでいるという立派な構成であった。

石川ゼミナール、中国班

中国の WTO 加盟を中国経済が自由主義経済に向けて大きく舵を取ったという象徴として捉え、これにより中国の貿易・投資が活発化し、経済活動が全国的規模では活発化すると予想されている一方、短期的には大きな社会構造の変革に伴う失業問題、国有企業改革に伴う社会不安があると指摘した。また国有企業の非効率性を郷鎮企業と比較し、国有企業は経営自主権が明確に確立されておらず、権限、責任、利益の所在が曖昧で政府の優遇政策を受け、競争にさらされることがなかったため非効率な経営を続けていたと指摘した。よって国有企業は WTO 加盟による自由化の波の中で競争激化に苦しむことになるだろうとまとめている。

内容の要約の質の問題は、私の表現力の欠如によるところが大きいです。実際には論文は B4 で数十枚ありました。不満をもったみなさん、申し訳ないです。

総括

全体を通しての感想として、今回のインゼミでもっとも痛切に感じたのは「伝える」ことの難しさだった。各グループには発表と質疑応答を合わせて 1 時間の持ち時間が与えられた。少ない時間ではなかったと思う。いくら自分達が細かく調べても、それを相手に分かりやすく伝えることが出来なければ、プレゼンの価値は半減してしまう。一橋大の各グループは、パワーポイントを用いて簡潔に、しかし重要な点は強調して説明していた。プレゼンが 30 分、質疑応答が 30 分とバランスもとれていた。しかし京大はプレゼンに 45 分も費やしてしまい、少し間延びしてしまった気がした。自分達の発表の内容を事前に要約するという作業をきっちり行っておくと、もっとすっきりとした発表が出来るはずである。これは来年への課題です。沓脱君と杉さん、来年のインゼミ委員さんは今年のインゼミ委員よりはるかに高い能力を備えていると思います。（ごめんなさい、大塚さん笑）だからこそ、難しいことではあるけれど、自分達の論理の一貫性という点を常に意識して、グループを引っ張ってもらいたいと思います。その上で、グループの全員が自分達の主張を簡潔に表現できればさらに理想的！！です。自分達の課題を後輩に押し付けるというのは、なんとも無責任ですが、来年の皆さんのポテンシャルに期待しつつ、私は先輩面をしながら見守ります。がんばってください。来年はさらに充実したインゼミになりますように！

最後に

今回のインゼミでは大阪大学の皆さんに会場準備や各校の調整を引き受けていただきました。また、終了後には楽しい懇親会（コンパ）も開いていただきました。阿部ゼミの皆さんと阿部先生には心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。また、初めてインゼミを行った石川ゼミのみなさん、プレゼンの技術や活発な意見交換など率直に感心しました。お礼を申し上げるとともに、来年以降もぜひ交流を続けて欲しいと思いま

す。最後に様々な点で協力してくださった皆さん、
そして何より至らない班長を支えてくれたセーフ
ガード班の皆さん、どうもありがとうございました。
た。